
公的評価におけるGISを使った支援ツール (P-MAP)の活用について

公益社団法人 日本不動産鑑定士協会連合会
公的評価GIS導入小委員会委員長 小森 洋志 氏
公的評価GIS導入小委員会委員 安田 商基 氏

公的評価におけるGISを使った支援 ツール（P-MAP）の活用について

2015年10月23日

公益社団法人 日本不動産鑑定士協会連合会

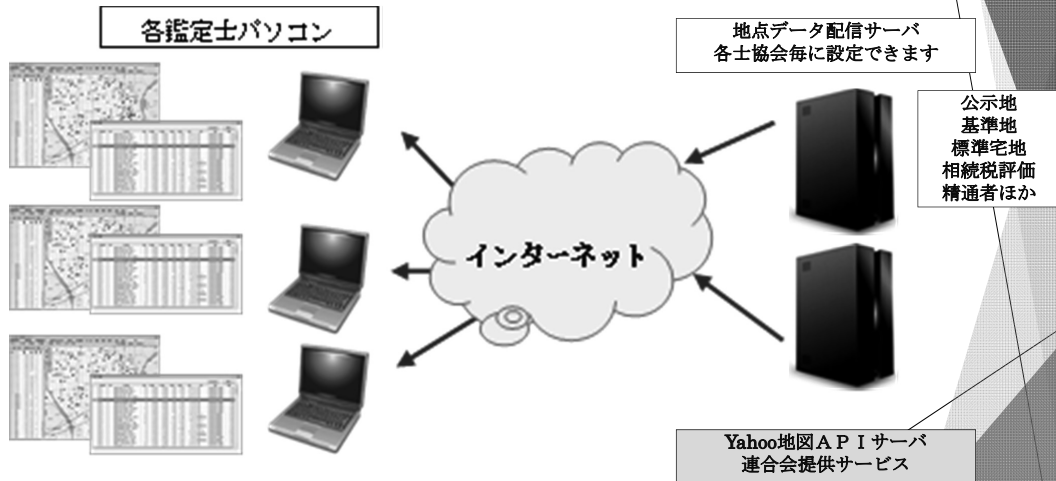
公的評価GIS導入小委員会委員長 **小森 洋志**

公的評価GIS導入小委員会委員 **安田 商基**

本日は話す内容

- ▶ P-MAPの概要
- ▶ P-MAPの利用環境
- ▶ P-MAPの導入メリット等
- ▶ P-MAPの活用事例（愛知集計システムとの連携）

P-MAPの概要



P-MAPの概要

- ① 地図情報はネットワークから配信（Yahoo地図APIサーバ、連合会提供サービス）
- ② 各種公的評価などの地点データをサーバに設置し、インターネットを介して各会員のパソコンで地図上に地点表示（地点データ配信サーバ→各鑑定士パソコン）
- ③ 個々に作業中のデータをパソコンに取り込み、サーバのデータと合わせて表示することも可能。
- ④ 利用範囲として、パソコンごとに独立した利用、作業グループでのデータ共有等、色々な利用が可能。

P-MAPの利用環境

- ① P-MAPはパソコンにプログラムをインストールして利用（ブラウザ機能を利用）
- ② Windows7,Windows8でIE10,IE11がインストールされているパソコン上で動作
- ③ インターネットから地図データを受信（インターネットに接続されていることが必要）

P-MAPの導入メリット等（業務上のメリット）

- ①価格バランス検討
- ②作業グループ内の情報共有
- ③計測での活用
2地点間の道路距離や方位を自動で計算
- ④標準宅地等の点検チェック
点検作業に活用
- ⑤各種評価情報の蓄積
過去の評価データ等を蓄積し、再利用

P-MAPの導入メリット等（他の地図システムと比較した場合のメリット）

①導入価格

単体地図システムを利用すると、鑑定士毎に地図システムを購入する必要があり、人数分の地図システム購入費用がかかる（導入費用の圧縮）

②地図の更新

最新の地図を利用するには、鑑定士毎に地図システムの背景図を更新することが必要。本システムではネットワーク配信の地図を表示するので常に最新の地図が表示される

P-MAPの導入メリット等（他の地図システムと比較した場合のメリット）

③情報の共有化

例えば、確定された公表データ等については会員全員で共通のデータを共有することが可能であり、作業中のデータはグループ毎に共有することが可能

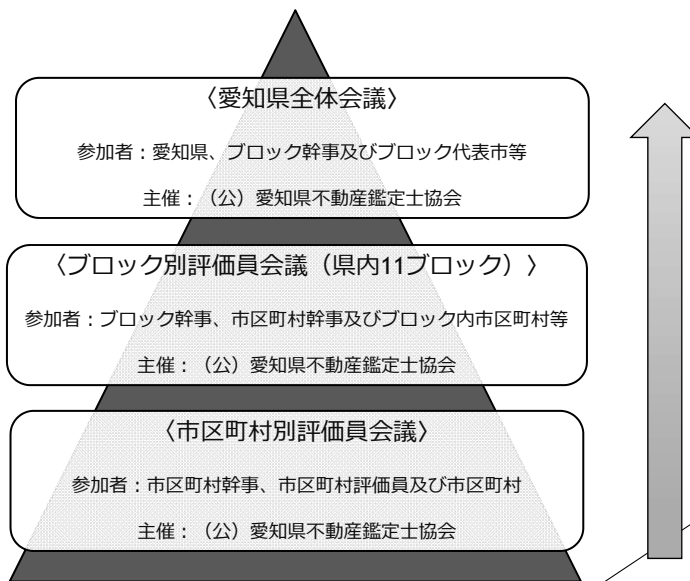
④シンプルな機能

評価作業で利用する機能を簡易にまとめたことにより、使い勝手が簡単

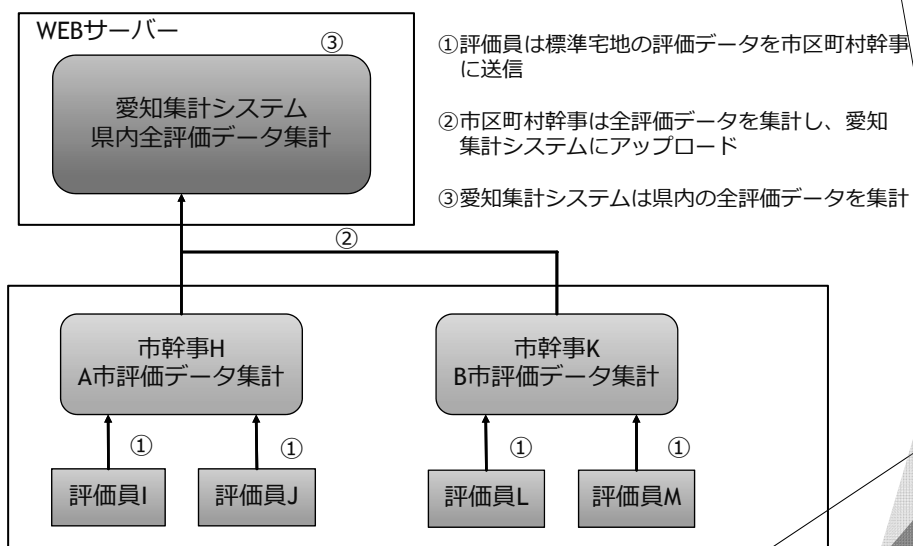
⑤士協会独自の拡張

士協会毎に機能を追加することも可能

愛知県における固定資産標準宅地評価業務のバランス検討会議について



P-MAPの活用事例（愛知集計システムとの連携）



P-MAPの活用事例（愛知集計システムとの連携）

